



## #医学書院の新刊

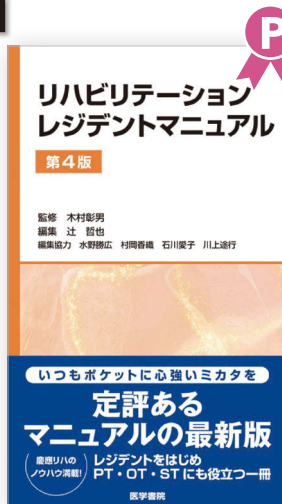


## 外来・病棟・地域をつなぐ ケア移行実践ガイド

小坂鎮太郎、松村真司＝編

定価 3,850 円／B5 判・184 頁／医学書院／2022

救急外来、ICU、急性期・慢性期病棟、回復期病棟、退院、そして地域へ……。1 人の患者さんに複数の医療者・施設が関わるのが一般的となり、各セクションでの連携が求められている。しかし療養場所や担当者が変わるなかで、重要情報が抜け落ちる場合もあるのが現状だ。そこで、スムーズなケア移行の実現に必要なカルテや指示簿、診療情報提供書の書き方など、医療の質を落とさないためのノウハウを 1 冊に凝縮した。



## リハビリテーションレジデントマニュアル 第 4 版

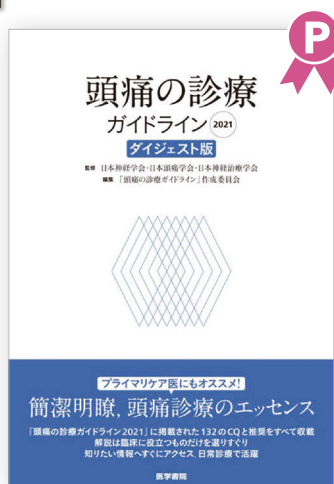
木村彰男＝監修

辻 哲也＝編

水野勝広、村岡香織、石川愛子、川上途行＝編集協力

定価 4,620 円／B6 変判・432 頁／医学書院／2022

日常のリハビリテーション診療・治療に携行できるポケットサイズで、迷った時や困った時に、評価・診断、治療、疾患・障害から検索できる。見逃してはならない重要なポイントを「臨床上のコツ」として集約。臨床でよく使われる評価スケールを付録として収載。リハビリテーション科専門医を目指すレジデントはもちろん、PT・OT・ST にも役立つ 1 冊であり、初期研修医や他科医師が最初を持つテキストとしても最良の 1 冊。



## 頭痛の診療ガイドライン 2021 ダイジェスト版

日本神経学会、日本頭痛学会、日本神経治療学会＝監修

頭痛の診療ガイドライン作成委員会＝編

定価 3,850 円／A5 判・224 頁／医学書院／2022

『頭痛の診療ガイドライン 2021』(2021) の内容をコンパクトにまとめたダイジェスト版。判型は小さくとも、132 の CQ と推奨文は割愛せず全文掲載。膨大なエビデンスの塊であったガイドライン本体からエッセンスだけをいっとこどろ。頭痛診療の指針としての心強さはそのままに、読みやすく持ち運びにも便利な 1 冊。

本欄で紹介した書籍は、読者アンケート (p.1016) に  
ご回答いただいた方に、抽選でプレゼントいたします。



『medicina』2022年6月号 (Vol.59 No.7)

## 抗菌薬の使い方

敵はコロナだけにあらず！ 今こそ基本に立ち返る

上原由紀＝企画

定価 2,860 円／B5 判・208 頁／医学書院／2022

執筆陣は、何らかの形で新型コロナウイルス感染症に対応、あるいはそれ以外の感染症への対応を止めずに進める仕事を担っている。抗菌薬についてのオーバービューと使用に欠かせない薬理学的知識を整理し、「原因微生物」「抗菌薬」「感染症診断・治療」という3つの要素について解説する。新型コロナ感染症出現後の感染症診療で変化があった点やジレンマについても触れており、本特集が感染症診療や抗菌薬使用の基本姿勢を取り戻し維持するきっかけになれば幸いである。



## 健康格差社会 第2版

何が心と健康を蝕むのか

近藤克則＝著

定価 2,860 円／A5 判・264 頁／医学書院／2022

日本が「健康格差社会」であることを世に示した初版の発行後、社会疫学研究の進展により健康格差の存在は共通認識となり、健康格差の縮小が国の政策目標に掲げられるに至った。第2版では初版の内容を基盤にしつつ、この間に蓄積された多くの科学的知見を追加。「健康の社会的決定要因」などに関する議論の動向も解説する。「健康格差」の基本を知るうえで最適な定番書。